

令和6年度 高校生の税に関する作文 入賞者

国税庁が募集する「税に関する高校生の作文」には、敦賀税務署管内の高校生から824点の作品が寄せられました。ご応募ありがとうございました。

○敦賀税務署長賞

「北陸新幹線を通じて分かる税について」

浜上 恭羽(学校法人嶺南学園 敦賀気比高等学校2年)

○敦賀税務署長賞

「オリンピック」

松本 萌々花(福井県立敦賀高等学校2年)

「日本国民という名のファンクラブ会員」

辻 隼次郎(福井県立敦賀高等学校2年)

北陸新幹線を通じて分かる税について

敦賀気比高等学校 2年 浜上 恭羽

今春、北陸新幹線が敦賀まで延伸した。今回の延伸に使われた建設費は約1兆7000億円だそうである。工事の遅れによって開業が1年遅れた上に、資材価格の高騰や建設業界の人手の不足が原因で増額したらしい。しかし、人口6万6000人ほどの敦賀市に新幹線を通すために、多額の税金が使われていたことに私自身、とても驚いた。この税負担の大きさに批判があることも確かである。それでも多額の税金を使った理由は、全国的な高速交通ネットワークの整備により、人的・物的交流の活発化等を通じて地域の経済社会の活性化に果たす役割は大きいからで、私たち福井県民としても大いに期待していたからである。実際に自分の体験でも、敦賀駅の構内の様子や敦賀市の街中で観光客らしき人々を多く見かけられるようになった。また、おそらく仕事での移動で速やかに目的地に辿り着くことができることにより、需要が増え、そこでもまた経済効果に良い影響を与えるのではないかと想像できた。さらに北陸新幹線の話が広まったことで、福井県内の町や観光地などがメディア等に取り上げられ、福井のPRという面でも効果があった。これらを含めてある試算では、石川・福井両県への経済効果は年間計588億円だそうである。今後、北陸新幹線がどのように経済効果を表していくのか期待が膨らむところである。もちろん私たち福井県民も来県者を待っているだけでなく、北陸新幹線を活用して経済活動につな

げていく必要があると思う。

ではこれから先の税の使い道として、経済面以外ではどのような部分に目を向けるべきかと考えてみた。基本的には、北陸新幹線のように未来への展望が広がる使い方ができたらいいなと考えた。例えば、教育・文化への投資である。税の使い道について調べるうちに、新潟県長岡市には「米百俵」という教えが伝統になっていることを知った。幕末の戊辰戦争で荒廃した長岡藩に支藩から「米百俵」が見舞いとして贈られたが、長岡藩の大参事小林虎三郎は、米は文武両道に必要な書籍、器具の購入にあてるとして米百俵を売却し、その代金を国漢学校の資金に注ぎ込んだ。「時勢におくれないう、時代の要請にこたえられる学問や芸術を教え、優れた人材を育成しよう」という理想を掲げていたからである。果たして長岡藩からは近代日本を背負う多くの人物が輩出された。このように次世代の学びの環境を税によって整えることにより優れた人材を育て、その結果、地域の経済活動が活発になることが期待できるのではと考えた。これらのことから、費用がたくさんかかる項目でも、遠い未来のあるべき姿を見据えて、これから税を使ってほしいと思う。同時に北陸新幹線が私たちの未来の架け橋となったように、次は私自身が税を使う身として、未来を見据えた担い手となって生きたい。

オリンピック

敦賀高等学校 2年 松本 萌々花

二〇二四年七月二十四日、パリオリンピックが開催されました。日本の選手も合計四十五個のメダルを獲得するなど日本中が熱狂しました。

そこで私はオリンピックにかかる費用は何から得たお金を利用しているのかと疑問を抱きました。インターネットで検索してみると東京オリンピックでは経費総額が一兆六四四〇億円で東京都が七一七〇億円、組織委員会が七〇六〇億円、国が二二一〇億円をそれぞれ負担しここで、東京都や国が負担する金額は税金が使われているとのことでした。私はこの記事を見て驚きました。オリンピックは世界的な大会であるのにもかかわらず開催する国の国民が税金を通してオリンピックの費用を負担しなければならないことを初めて聞いたからです。オリンピックは国民の負担があつてこそ四年に一度、全三十三回行われてきたのです。

ですが、国民の負担の面で考えるとそこまでしてオリンピックを開催する必要があるのかという意見を持つ人もいます。そこでオリンピックを行う目的として、ターベルタンが唱えたオリンピズム=オリンピックの精神というものがあります。その内容はスポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神を持って、平和でよ

りよい世界の実現に貢献することです。この文章だけを見ると選手に向けての言葉に聞こえるかもしれませんが、私は違うと思います。例えば今回のパリオリンピックでも自国の選手ではない選手を応援したり、自国ではそれほどメジャーとはいえないスポーツをオリンピックがきっかけで知ることになったりと「文化・国籍などさまざまな違いを乗り越える」という点では観客にもできることであると思うからです。スポーツを介することで誰もが異文化や各国の伝統に興味・関心を持ちやすいと思います。それに加えて「文化・国籍などさまざまな違いを乗り越える」ということは現代の全世界で必要となっている異文化コミュニケーションという点ですごく重要なことだと思うので、私は国民の税金による負担があつたとしてもオリンピックは開催すべきだと思います。

私が考える税金の意義と役割は国民の考えの幅を広げることだと思います。税金があることで国にできることが増え、それによって私たちもあらたな経験をすることができる。それは国にとっても私たちにとってもウインウインな関係だと思います。

オリンピックが今後も世界を繋ぐきっかけになりますように。

日本国民という名のファンクラブ会員

敦賀高等学校 2年 辻 隼次郎

私は日本国民が納めている税金を何かに例えらるとするならば、「国が行っているファンクラブ」だと考える。ファンクラブとは、いわゆる芸能人がアイドル、スポーツチームなどのファンで構成される団体。または、その形式を用いたシステムだ。最近では、K-POPアイドルたちの流行により、多くの若者や学生がそれらのファンクラブに加入していることだろう。では、ファンクラブに入るとどのようなメリットがあるのか。K-POPのファンクラブで考えると、ファンミーティングの参加権利の取得、ライブのチケットが一般のファンより優先されて選出される。また、ファンクラブ加入者限定グッズなど、多くのサービスを受けることができる。

そうすると、日本国民が加入している日本のファンクラブの会費は税金ではないだろうか。税金という名の日本ファンクラブ会費は払う、つまり、納めることでファンクラブのサービス、社会福祉を得ることができるという風に考えた。

では、この現代社会の中で果たしてどれだけのファン(日本国民)がファンクラブのサービス・恩恵に満足して

いるだろうか。もちろん、ファンクラブの運営者である国の政府は国民が納めた会費(税金)を財源としているため、それ相応のサービスを提供していかなくてはならない。だが、今の日本はどうだろうか、日本の経済成長率は戦後の好景気からだんだん下がり、横ばいの状態でありながら、納める税金の額だけが増えている。こんなのは、ファンがだんだん高くなっていく会費を払いながら、ずっと変わらないサービスを受けているのと同じようなことであり、このままでは他のファンクラブへの移行や、ファンの数が減る。言うならば、海外への移住や納めようとする気持ちがどんどん下がってしまう私は考えた。

そのようなことから、今の政府は賃金を上げたり、社会福祉を良くしたりと、限られたファンクラブの会費(税金)の中で、国民という名のファンの生産性を良くしていくことが必要だと思う。そのためには、まず国民のファン一人一人が自分たちの将来を考えて、税金を納めることで、日本という名のファンクラブをアップデートとしていくべきだと私は思った。